

小田原市で2001年に確認されたナガサキアゲハ

小林侑樹

Yuki Kobayashi: A subtropical butterfly, *Papilio memnon thunbergii*, discovered from Odawara, central Japan in 2001

はじめに

亜熱帯性のチョウであるアゲハチョウ科ナガサキアゲハ *Papilio memnon thunbergii* Siebold は、突然1999年になって横浜市中区と三浦半島からそれぞれ複数の個体が確認され、神奈川県でも発生するようになったと考えられている。2000年にはその記録も増加し、分布は三浦半島から湘南地方にかけての一带と横浜市中区に及ぶようになった(以上, 岸, 2001; 高桑, 2001)。2000年の時点では小田原・箱根地方での記録はなかったが、2001年になって筆者は小田原市でも複数の個体を採集または目撃しているの、本種の発生が神奈川県西部に達していることは確実と思い、ここに記録しておくことにする。

採集・目撃記録

2♂採集・6♂目撃, 曾我山六本松, 5. IX. 2001; 1♂目撃, 入生田, 8. IX. 2001; 1♂目撃, 田島若葉地区, 15. IX. 2001; 1♂目撃, 田島若葉地区, 16. IX. 2001; 1♂採集・2♂目撃, 曾我山, 26. IX. 2001; 1♀採集, 田島別所界地区, 3. X. 2001, 以上いずれも筆者によるもの(採集品は筆者保管)

曾我山と田島での雄は、一面がミカン畑となった場所で確認された。また田島における雌は道路に落ちていた死んだ個体である。採集できた雄はいずれも後翅表面の青色鱗の発達が弱い型であり、雌も後翅の白斑は発達しているがいわゆる本土の型(亜種 *thunbergii*)であった。

なお、10月3日以降もたびたび曾我山を訪れたが、1頭も確認できなかった。

小田原市への進出状況

上記の採集・目撃例が本種の小田原市における最初のものではない。すでに2001年5月13日に市西北部の和留沢において1雄が採集されている(波多野, 2001)し、露木太一氏はそれよりも1週間前の5月6日に1雄を小田原駅近くの栄町で目撃されている。な

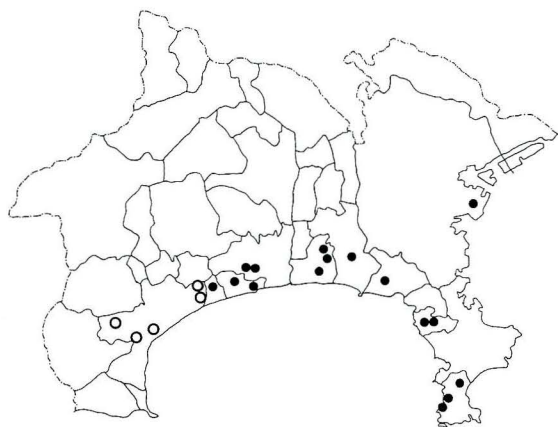


図1. 2001年における小田原市でのナガサキアゲハ記録地点(○: 岸, 2001に示された1999・2000年の記録地点(●)の図を使用)。

お、神奈川県立生命の星・地球博物館の高桑正敏・勝山輝男両氏は同年9月6日に入生田駅において1雄を目撃している。入生田では筆者の観察例と併せ、2例が目撃されている(同一個体の可能性もあるが)ことでもあり、小田原市西部でも発生した可能性が強い。

本種がどういうルートで小田原市に進出したかは明らかでないが、他の地域から飛来してきたとすれば、ふつうには次の2通りが考えられる。

A. 伊豆半島方面から

2000年には伊豆半島東海岸の伊東市で発見されている(高桑, 2001)ことから、その方面のものが北上して小田原市に到達した。ただし、湯河原町や真鶴町方面での発見例が出ていないとすれば、その可能性は低いと見るべきかもしれない。

B. 湘南地方方面から

2000年夏には二宮町一色で発見されており、また大磯町や平塚市での発生が確認されている(岸, 2001)ことから、この地域のものが西方に進出した。曾我山や田島は二宮町に隣接している(一色とは直線距離で4km程度)ことから、当地のものはこのルートの延長と考えることができる。

おわりに

ナガサキアゲハは2001年になってようやく小田原市でも発生が確認されたが、その記録はまだ局地的である。また、湯河原町など小田原市と伊豆半島との間の地域での記録が出ていない。本種がどうやって小田原市に進出したか、あるいはこれから小田原市を中心とした神奈川県西部地域でどうやって分布を広げていくのか、大変に興味をもたれる。

謝 辞

本報告を行うにあたって、箱根蝶の会の露木太一会

長と神奈川県立生命の星・地球博物館の高桑正敏学芸員にいろいろと教えていただいた。お二人に心から感謝申し上げる。

文 献

- 波多野連平, 2001. 小田原市でナガサキアゲハを採集. 箱根と蝶, (34): 2.
岸 一弘, 2001. 神奈川県に進出したナガサキアゲハ. 月刊むし, (364): 34-35.
高桑正敏, 2001. 亜熱帯性チョウ2種の関東における発生の謎 (2). 月刊むし, (365): 2-9.

(256-0811 小田原市田島 1500)